

令和3年度 第1回芽室町環境審議会議事録

日時 令和3年11月2日(火) 15時30分から17時10分

場所 芽室町役場2階 会議室7

○会議次第

1 開 会

橋本 直樹 環境土木課長

2 会長挨拶

貫田 正博会長から挨拶

3 報告事項

(1) 第5期芽室町総合計画（環境部門）の評価結果について

(2) 令和2年度環境調査結果について

(3) 芽室町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）進捗状況について

4 協議事項

(1) 令和4年度実施予定 重点取組事項について

5 その他

6 閉 会

貫田 正博会長

○出席委員（敬称略）

貫田 正博	高井 宏司	阿部 浩	砂金 新一	佐藤三千子
森住麻友美	福間 智子	臼木 一英	井上 貴明	村瀬 雅道
塚本 元一	後藤 勝幸			

○欠席委員（敬称略）

大橋 一博 高橋 好明

○傍聴人

0人

○町側出席者

橋本 直樹 環境土木課長
齋藤 和也 環境土木課長補佐兼生活環境係長
飯野 希斗 環境土木課生活環境係主事

○会議要旨

報告事項

- (1) 第5期芽室町総合計画（環境部門）の評価結果について
齋藤補佐から資料に基づき報告

【委員からの質問】

【委員】

施策名：景観の保全とクリーンエネルギーの推進の中で、指標に使われている住民意識調査の数値が、策定時の方が高くて目標値のほうが低くなっているが、どのような設定をしているのか。

→策定時の数値は当時の住民意識調査結果を記載している。目標値の設定は、第5期芽室町総合計画を策定する段階において、策定時の結果を勘案しながら設定したものである。

- (2) 令和2年度環境調査結果について
齋藤補佐から資料に基づき報告

【委員からの質問】

【委員】

騒音調査の資料の中で、過去5年間の騒音交通量調査結果が記載されており、その中で大型車両の混入率が記載されているが、平成28年度結果と比べて令和2年度の結果は混入率が減少していないと思うが、減少傾向と記載されているのはなぜか。

→資料は過去5年間のものであり、その結果を考察しているものである。令和元年度までは8月期・11月期のいずれも減少傾向にあること、全体の車両台数が減少していることから、5年間全体を見て大型車混入率が減少しているとしたものである。

- (3) 芽室町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）進捗状況について
齋藤補佐から資料に基づき報告

【委員からの質問】

【委員】

色付き指定ごみ袋の取扱いに関する検討について、令和3年度の進捗状況はどのようになっているか。

→令和3年度については、町民の皆さんから寄せられているホットボイスの声や直接聞く内容などを集約する作業を行っているところである。また、十勝管内で現在、実際に

色付き指定ごみ袋を使っているのは芽室町だけである。他の自治体は市販のごみ袋などを使用して資源ごみを排出していることから、分別状況や事業者が行う回収の状況などを他の自治体から聞き取りなども行っている。

【委員からの意見】

【委員】

身内が在住している場所や旅行で出かけた場所など、様々な地域でごみを捨てているが、芽室町のようにこれだけ煩雑な町はない。レジ袋にペットボトルや缶を入れてしまえば捨てることができる。ごみ袋を個別に作っていることも、環境負荷の一因となるのではないか。現在の手法に不満はないが、芽室町のやり方が少数派である。

【委員】

今回、LINE 公式アカウントで粗大ごみ申請受付ができるようになったが、これらの活用は良いと思う。また、今後予定しているというプッシュ型の情報発信も良い考えだと思う。

協議事項

(1) 令和4年度実施予定 重点取組事項について

【委員からの意見】

【委員】

ごみ分別や排出など、ごみや環境に関する内容について、学校関係（子どもたち）への教育は具体的にどう取り組んでいるのか。その状況等も把握しながら、授業等を通じてごみや環境に関する教育を行ってもらえるよう働きかけてみては。

→小学校3・4年生の副読本にはごみに関することが掲載されており、施設見学なども行っていることは把握している。授業等については、学校のカリキュラム等があることは承知しているところであるが、今後、学校に働きかけてみる。

【委員】

公共施設にごみ箱が設置されている場所があるが、分別等を行わずにそのまま入れて行く人が多い。

【委員】

ほかの地域では、芽室町と同じように分別はするが、資源ごみを入れる袋はスーパーのレジ袋。袋の購入するのは、燃やすごみ袋・燃やさない袋。

捨てながら教育するという意味も含め、ごみを捨てられる場所が町内にあると良い。そして、そこに教えてくれる人がいる。そういう場所が必要と思う。

【委員】

小学4年生の子どもがおり、今年度、くりりんセンターへ施設見学に行ってきた。

「資源ごみが洗われていないと大変だ」などということを知ってきたと言っていた。

私は、結婚後に芽室町に住むことになったが、数年が経ってみて、色付きごみ袋であるからこそ分別がしやすいと思っている。袋の金額も高いわけでない。

しかし、色付きごみ袋を使っていない自治体がほとんどであるということを知ると、驚きである。

食品ロスについて、学校給食ではかなりのフードロスとなっていると聞いている。

かつては嫌いなものでも無理やり食べさせたりしていたが、今はそのようなこともないことから、食べ残しが多くなっている。食品ロスについては、給食がいい例になるのではないか。

【委員】

芽室町の色付き指定ごみ袋は、回収する委託事業者の人が間違えることがないので、それは良いことであると思っている。その中で、ごみの分別がなされていない要因の一つには、企業等の問題もあるのではないかと思う。

また、手引きを見ても、普段捨てているごみの名称が分かりづらい。例えば、割れ物を包む物の名称は何か、など。今後、町ホームページやLINEなどでごみに関する内容が分かるのは良いと思う。

【委員】

家庭から排出するごみ、個人的にもできるだけ減量していかなければならないと思っている。私自身、本州から芽室町に引っ越してきたので、分別内容が細かくて大変と感じている。一方で、それなりの取組でリサイクルが進むのはいいこと。

分からないことが多く、分別方法が難しいので、材質や内容についてシートを見ながら振り分けることができる「分別フローチャート」が作られると良いと思う。

【委員】

普段の雑感だが、家庭ごみと事業系ごみを見ると、職場では家庭ほどの細かな分別をしていない。事業系ごみだから良いのかなと思っているが、矛盾があるとも思っている。

【委員】

ごみの減量化について、どうやって減らせるのだろうかと考えると、強制的に減らせる方法と意識改革を組み合わせながら取り組んでいくことが必要かなと思う。

強制的な対応としては、色付きごみ袋の使用がその手法かと思う。そして、意識改革は学校での教育が効果的であると考えます。ただし、現在のごみ減量化に向けた劇的なカンフル剤にはならないと思うし、ごみ減量化に向けた取組は地道にやっていく必要がある。

企業側からすると、企業側も製品を使ったあとのごみを減らすような取組を望まれる声がある一方で、消費者側のニーズもある。「過剰包装ではないか」という人もいればそうではない人もいる。

しかし、その中でも企業としてはごみとなる物を減らす方法を考えていかななくてはならないと考えている。

【委員】

分別の問題については、これだけ細かく分けているのに、それに対する対価・成果が分からないということが、分別が進まない要因の一つであると思う。

これだけの資源ごみを町民の皆さんに協力してもらったから、町でこれだけ助かっているなど、その仕組みがあると良いのではと思う。

ごみを削減した分の何らかのメリットが必要。全国には数多くの自治体があるので、さらに調べてみて参考になる自治体をまねていただくことも方法ではないか。

【委員】

私は食料がない時代に育った人間であるため、「食べ物を残してはいけない」とよく言われていた。飽食時代になり、せっかく料理を作った人たちのことを考えると、持ち帰るなど、そのような手法も必要ではないかと思っている。そして、持ち帰るための容器の配付や、持ち帰る方にはポイントをつけるなど、もう一工夫した手法が必要かと思う。

【意見に対するまとめ】

○次年度に向けて

色付き指定ごみ袋の取り扱いについては委員の中でもメリットやデメリットの話が出され賛否両論であった。また、LINE やホームページなどのツールを活用する手法は肯定的な意見が多く出され、今後も継続して取り組んでいく必要があると認識した。

また、子どものうちからごみや環境について学ぶ機会を設け、意識づけができるよう学校に働きかけてほしい旨の意見が複数出されており、今後、総合学習の機会などにSDGsを絡めたごみや環境に関する説明等を行う機会を設けてもらうよう、教育委員会へも相談をしながら各学校に打診をしていくこととする。

その他

特になし

<17時10分 閉会>